

# ●三位一体後第十六主日 泉のほとり

今月の詩編「第十四編」

どうか、イスラエルの救いが

シオンから起こるように。

主が御自分の民、

捕われ人を連れ帰られるとき

ヤコブは喜び躍り

イスラエルは喜び祝うであろう。



## 舌は疲れを知らない悪

教師ヤコブは「行いの伴わない信仰は死んだものです」と告げた後、「あなたがたのうち多くの人が教師になつてはなりません。私たち教師がほかの人たちより厳しい裁きを受けることになると、あなたがたは知っています。私たちは皆、度々過ちを犯すからです」と語りました。

教師は多くの知識を持ち、教えるために語ることばの数も量も人一倍多い中、自分が語るすべてのことばにおいて行いが伴わないことに陥ることも、言葉の数の分、増すのです。兄弟たちに裁きの時のことを語つてきましたが、ヤコブこそ教師がより厳しい裁きを受けるとの事実に生き、神の前に立つ時のことを恐れて兄弟に教え、自分の教えからも自分自身をかえりみる、誠実に教師の務めをなしていた方だと気付かされるのです。

何よりも彼が最も恐れていたのは裁き以前に、その裁きをもたらずこととなる人への「教え」に、一步も神のことばから逸れることがないように、それで兄弟たちが間違つた道を歩むことがないようにとのことだつたと思います。特に聖書の教えは、人の「たましい」「救い」「永遠のいのち」と「滅び」と関係するので、非常に重い責任を帯びるものとの恐れが彼の働き全領域に生きていたと思います。

ヤコブは続けて舌について「馬を御するには、口にくつわをはめれば、その体全体を意のままに動かすことができます。同じように、舌は小さな器官ですが、大言壮語するのです」と語りました。その「舌」の破壊的力をも教えています。「ご覧なさい。どんなに小さな火でも大きい森を燃やしてしまふ。舌は火です。舌は『不義の世界』です」と。実際、私たちは憎しみと恨み、妬みから出てくる言葉、誹謗中傷の言葉が常に行われるのを知っています。そういった言葉こそ、山火事のように広がるのに早く、火のように移っていくうちに、その言葉も大きく変わつて、暴力性を増していくことも見るのです。また「舌は不義です」と述べましたが、人の憎しみや恨み、妬みに晒される時、誹謗中傷も、ほとんどの場合、

「不義による言葉」との認識はなく、むしろ人への訴え、義の主張という衣を着て表されることに、人の闇、罪深さが現れているのです。

ヤコブ先生は「私たちの体の器官の一つで、全身を汚し、移り変わる人生を焼き尽くし、自らも地獄の火によつて燃やされます」と非常に激しいことばで警告しましたが、私たちはこの教えも決して捨ててはならず、舌がもたらす結末を加減なく真実に伝えていくこの教えをも自分のための信仰の糧にしなければなりません。

ヤコブは続けて言います。「舌を制御できる人は一人もいません。舌は、疲れを知らない悪で、死をもたらず毒に満ちています。私たちは舌で、父である主を賛美し、また、舌で、神にかたどつて造られた人間を呪います。同じ口から賛美と呪いが出て来るのです。私の兄弟たち、このようなことがあつてはなりません」と語られました。舌を制御できる人は一人もいないと告げながら、しかし、そのままではよいとは言われないのです。「そうであつてはならない」と言うのです。

ヤコブは最後にも一步も譲らぬ言葉で訴えるのです。「泉の同じ穴から、甘い水と苦い水がわき出るのでしようか。私の兄弟たち、いちじくの木がオリブの実を結び、ぶどうの木がいちじくの実を結ぶことができるでしょう。か。塩水が甘い水を作ることできません」と。救われようのない現実がまたも告げられているように、実はここに「救いの真理」が示されているのです。人は知恵と力を尽くしても救われ得ない、しかし、神にできないことはありません。神は泉の根源を清く、完全に癒すことのおおきくなるお方です。それゆえに、私たちはヤコブ先生の「そのようなことがあつてはならない」と語られる神のことばを心に止め、神の力を頼る信仰を止めてはなりません。

何よりも私のために真実をなされた主イエスの十字架の御業がまた、力強く、そう語り、その力に生かされるようにと語っています。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○ 礼拝後、信仰者たちに学ぶ会を地下ホールで行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○ 運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

○ 附属幼稚園のミュージカルが一日(土)午後三時から礼拝堂で行われます。

○ 次回の洗礼式と転入会式は二月二一日のクリスマス礼拝の際に行う予定です。受洗・転入会をご希望の方は願書をお書きになり、本日中午に牧師宛ご提出ください。願書は教会事務所にあります。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《奉仕カテゴリーより》

本日、礼拝後にディアコニアショップにて「手作り味噌」を販売いたします。

また、一〇月二二日(日)の午後に、キッチン冷蔵庫、冷凍庫をメインに大掃除を行います。ご協力いただける方は、以下の日時にお集りください。

日時：一〇月二二日(日) 一二時三〇分～一四時三〇分

場所：地下キッチン

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。  
 (司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和  
 します。

【詩篇十四篇】 指揮者によって。ダビデの詩。

神を知らぬ者は心に言う

「神などない」と。

人々は腐敗している。

忌むべき行いをする。善を行う者はいない。

主は天から人の子らを見渡し、探される

目覚めた人、神を求める人はいないか、と。

だれもかれも背き去った。皆ともに、汚れている。

善を行う者はいない。ひとりもない。

悪を行う者は知っているはずではないか。

パンを食らうかのように

わたしの民を食らい

主を呼び求めることをしない者よ。

そのゆえにこそ、大いに恐れるがよい。

神は従う人々の群れにいます。

貧しい人の計らいをお前たちが挫折させても

主は必ず、避けどころとなつてくださる。

どうか、イスラエルの救いが

シオンから起るように。

(司・会)

主が御自分の民、

捕われ人を連れ帰られるとき

ヤコブは喜び躍り

イスラエルは喜び祝つてあろう。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「天におられる父に祈る」

聖書 マタイ6章5〜15節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「求める人に良いものを与えてくださる」

聖書 マタイ7章7〜12節

説教者 宮間彰広 兄

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 88番 279番

説教 「上からの知恵は」

聖書 ヤコブ3章13〜18節

説教者 黄允湜 牧師





## 主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 90番 254番  
説教 「神の前に正しい心」  
聖書 使徒8章9～25節(新約 P.228)  
司式 山下純一 兄  
聖餐司式 黄允湜 牧師  
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「神はわがやぐら」M.ブレイクス

### ○讃美歌90番

1. こもかみの みくになれば  
あめつち御歌を うたいかわし  
岩に 樹々に 空に 海に  
たえなる御業ぞ あらわれたる
2. こもかみの みくになれば  
鳥の音 花の香 主をばたたえ  
あさ日 ゆう日 栄えにはえて  
そよ吹く風さえ かみをかたる
3. こもかみの みくになれば  
よこしま 暫しは ときを得とも  
主のみむねの ややに成りて  
あめつち 遂には 一つとならん  
アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

### ○聖歌隊による讃美

「永遠(とわ)にたたえよ」 J.P.Sweelinck 作曲  
永遠にたたえよ  
み神のみ名を  
高く歌え  
み栄あれと  
地の果てまでも  
みわざたたえよ

### ○讃美歌254番

1. 父のみかみよ みまえにふして  
つみをくいつつ せつにいのる
2. イエスよ 十字架のみもとにきたり  
みゆるしもとめ せつにいのる
3. きよきみたまよ そむきまつりし  
こころくだけて せつにいのる
4. 罪をばゆるし なやみをのぞき  
とがをきよめて すくいたまえ
5. かわらぬみむね めぐみのちかい  
あおぐわが身を すくいたまえ  
アーメン

聖餐曲「神のなしたもうことは全てよし」J.バツルバル

後奏曲「たたえよ、王なる我らの神を」L.スミス